

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393400037		
法人名	ふなびきメディカル		
事業所名	グループホームかがやき 西区		
所在地	愛知県犬山市前原西3丁目35番地2		
自己評価作成日	令和3年10月9日	評価結果市町村受理日	令和4年2月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営理念にある「一人ひとりが笑顔でその人らしく生活すること」を基本に、ご利用者様やご家族様が安心して笑顔で暮らせるようにサポートします。外出支援の充実を図り、施設内ばかりでなく気分転換や季節を肌で感じていただけるよう支援し、快適な暮らしを目標に日々取り組んでいます。(最近ではコロナ禍で外出できていませんが。)  
有床診療所があり、医療との24時間の連携を持つことにより、健康面でのサポートも充実しています。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2393400060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2393400060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの運営母体が医療機関でもあることで医療面での支援が従事していることが当ホームの特徴でもある。医療面での支援を行いながら身体状態の重い方もホームでの生活を継続している。利用者の看取り支援も行われており、ホームで最期を迎えている方もいる。利用者の外出が困難な状況が続いているが、関連事業所に協力をお願いしながら、利用者がリハビリに出かける等、外出の機会がつけられている。ホーム内も広めの空間が確保され、両ユニットが平面でつながっており、利用者が閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。家族との交流も困難な状況が続いているが、ホームでは関連事業所とも連携しながら、感染症問題が起きる前から、運営推進会議の案内文書に「ご意見欄」を載せる取り組みが行われており、家族から定期的に要望等を出してもらっている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年10月25日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	フロア内の目につくところに運営理念を貼り出し、共有している。	ホーム開設時につくられた理念を職員の支援の基本に考えており、ホーム内への周知も行われている。また、ホームでは職員に向けたアンケートを実施しており、職員間での理念の共有につなげている。	今年度に入り、管理者が交代したこともあるため、理念の共有と実践について、ホームの継続的な取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナが影響で、外部との接触ができないため、地域との交流はできていない。	地域の方との交流については、感染症問題が続いていることで困難になっているが、関連事業所とも連携しながら可能な範囲での交流が行われている。例年は、地域の活動に協力する等の取り組みが行われている。	地域の方との交流が中断している状況が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、可能な部分から地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内で認知症の理解を深めるための研修を行っているが、地域の人々に向けてはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、推進会議では書面開催なのですが、ご家族様や、参加してくださる地域の方(民生委員・犬山市役所職員・区長・老人会・包括職員)より、書面での意見交換を行っております。	会議については、関連事業所と連携して行われており、開催場所についても、事業所毎に交代しながら行われている。なお、今年度については、書面による開催が続いており、関係者にホームの現状を報告している。	書面による実施が続いているが、今年度に入り、管理者が交代したこともあるため、今後の状況もみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議では、意見交換を行い、市役所からの質問の返答も行っている。何かあれば高齢者支課窓口の方が相談にのって下さる。	市担当部署との連携については、運営法人の関連事業所を通じて行われることが多いが、市内の介護事業所のネットワークにホームからも参加する等、連携した取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回、身体拘束についての施設内での研修を行い、年4回、法人内で身体拘束廃止委員会を行い、事業所からも参加している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、両ユニットが平面でつながっていることで職員間で連携した利用者の見守りが行われている。運営法人全体で身体拘束に関する委員会が行われており、現状の確認が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内での研修を行う。月に1度、カンファレンスを行い、ご利用者様の状態を把握し、共有することで、チームケアをできるようにし、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実践者研修・管理者研修の中で学ぶ機会がある。 事業所独自の学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所の契約については、管理者・ケアマネが協力し、聞き取りを行う。 管理者は月に1度、電話でご家族様にご利用者様の状態を話し、質問も受けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議では、意見・要望が書き込めるようにし、まとめた用紙を再びご家族様に発送している。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は行事を通じた家族との交流が行われている。運営推進会議の案内文書にご意見欄を載せており、家族からの要望等の把握につなげている。また、2か月に1回のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回、職員面談の機会を設けるようにし、アンケートを行うことで、職員が今何に悩んでいるか、職員の意識のレベル、をできるだけ把握できるようにする。職員が提案しやすい環境づくりに努めている。	毎月の職員会議の他にも、日常的な申し送りを通じた意見交換が行われており、職員からの意見等を運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者が交代したこともあり、職員アンケートを実施したり、面談を実施する等、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準は理事の判断なので、管理者は口出しできない。 努力や実績に関しては、管理者が把握し、自施設内で発表したり、総務に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は自施設にて、ケアが学んだ事をフィードバックできるようにする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	犬山市役所が主催している、「犬山あんしんネットワークの会」に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、ご利用者様本人と面談し、どのような生活を送りたいか、を聞き取る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に、ご家族と面談し、要望や、ご利用者様本人の生活歴などを聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入院が続いていたご利用者様には、当施設の訪問リハビリを利用してもらい、ADLの低下を防ぐようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「言葉遣いを気を付ける」という月間目標を作り、尊敬の念を忘れないようにする。ご利用者様が主体のレクリエーションを行えるようにカンファレンスで話している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍において、なかなか面会ができなかった状態です。現在は、ガラス越しに面会を開放している状態です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在、コロナが原因で外出支援もできない状態です。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を継続しており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、利用者本人の希望もあり、身内の方の葬儀に主出席した方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	周りに積極艇に話しかけてくださるご利用者様を中心に、誰かが孤立しないような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了してからは、かかわりが無い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を聞き取ることで馴染みのあるレクリエーション(例えば、生け花が好きだった、晩酌が好き、など)を行うようにしている。	ホームでは、日常的な申し送り等を通じて職員間で利用者に関する情報交換を行い、利用者の意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスが行われており、利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に聞き取りを行う際に、どのような福祉サービスを利用していたかを聞き取り、実際にその利用歴のある事業所様から聞き取りを行うことにより、スムーズに入所につなげられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	「状態変化」のファイルを作成し、常に職員が細かな「気付き」を記入・共有することで、個人の状態を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネが介護計画を作る際は、ご家族様の要望を聞き取るだけでなく、職員からも情報を聞き、本人からも要望の聞き取りを行っている。	介護計画については、利用者の状態変化等に合わせた見直しが行われている。1日1ページの記録用紙の活用や職員間での情報交換を行いながら毎月の利用者に関するチェックを行い、3か月でのモニタリングにつなげている。	介護計画の見直しは行われているが、見直しまでの期間が1年を超えることもあるため、より短期間での介護計画の見直しにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は「個人記録」に記載している。更に「状態変化」の記録も記載することにより、ヒヤリハット事項等も、簡単に共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	聞き取った内容をサービスに生かす、という形でしか今のところ行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナが影響で地域資源の利用ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人様の希望を第一にしているので、掛かりつけの病院とのつながりはむやみに切らないようにしている。	運営母体が医療機関でもあることで、協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われている。また、母体の医療機関とも連携した看護師が勤務しており、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が日常的に施設を回って下さるので、細かい状態変化でも、話を聞いてくれる状態です。状態異常の早期発見にも繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネが常に情報シートを更新しているので、新しい状態を病院に情報提供することができる。個人記録には、緊急連絡先、薬情報が入っているので、緊急時、救急隊の方にもすぐに情報が提供できるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り介護を行っています。ドクターの指示で看取りが始まった際には、医師・在宅看護と連携して、穏やかな最後になるように取り組みます。	身体状態が重い方も医療面での支援を受けながらホームでの生活を継続しており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いが行われており、医療機関への入院等も含めた意向等の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当・初期対応については現在指導中で、実践はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は法人全体のもので年2回、事業所内では年2回を行っている。(今後は6回を目標にしている。)	年2回のホーム単独の訓練と年2回の法人全体の訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。水害を想定した訓練も実施しており、関連事業所との連携につなげている。また、備蓄品については、関連事業所と連携して確保している。	当ホームの建物が平屋であることで、水害時の対応に困難な伴うことが予測されるため、関連事業所との継続した協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけの事に関しては、プライバシーと合わせて外部からの研修が2回あったが、現在はコロナを理由に行われていない。	職員が利用者を尊重した対応や言葉遣い等を行うように管理者からも注意喚起の取り組みが行われている。また、職員に向けたアンケートの実施や「身だしなみ強化月間」をつくり、職員の意識向上につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自分で希望の出せる方からは、聞き取りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務的になりがちではあるが、ご利用者様のペースにそった対応を心掛けるようにしている。(例えば、昼寝の時間を作ったり、自由な散歩の時間にしたり。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服が選べるようにご家族様には揃えていただいている。 起床時の頭髪などのセットは、職員が手伝ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在は、コロナが影響して、食事の準備や片づけはできていない。	ホームでは、食事の提供方法が変更されており、外部業者で調理されたおかず類をホームのキッチンで温めて提供している。季節等に合わせた食事については、関連事業所の厨房と連携した食事の提供も行われており、行事食等の取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体形や、状態に合わせた水分摂取・食事摂取を、看護部と共に、連携しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、食後必ず行ってもらうが、介助の必要な方は職員が介助をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のパターンを知ること、失敗を減らすことに努めている。 おむつのバリエーションも増えているため、その人の状態に合わせて変化させている。	利用者の排泄記録を残し、日常的な申し送り等を通じて職員間で情報を共有している他にも、「排便対応表」も活用する等、一人ひとりに合わせた排泄に取り組んでいる。トイレでの排泄を継続できるように、看護師とも連携しながら支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のレクリエーションで便通体操を取り入れたり、牛乳やバナナなど、食事で便通につながるような取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴介助は、曜日・時間帯を、施設の決められた時間内で行われている。 拒否があった場合は、無理をせず時間帯を変えるなどの取り組みを行う。	利用者が週2回の午前の時間に入浴ができるように、2つのグループに分けて支援が行われている。利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼寝は自由に行ってもらっている。 散歩は、職員ができるだけ付き添う形で行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報を個人記録に挟み、常に把握できるようにしている。 睡眠薬の副作用を知るための研修も行っている。(自施設独自)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自施設のお手伝いをさせていただくことで、日々の生活に変化が出るようにしている。(例えば、タオル干し、洗濯物たたみなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩は行っているが、外出支援はコロナが影響できていません。	利用者の外出が困難になっているが、散歩を兼ねてゴミ捨てに出かけたり、近隣にある母体の医療機関への受診等、可能な範囲で外に出る機会をつくっている。また、理美容が関連の事業所で行われていることで、定期的な外出にもつながっている。	関連事業所へリハビリを兼ねて出かける等、事業所間で利用者の外出の機会をつくっているが、全体的には限られた範囲となっているため、今後の状況もみながら、利用者の外出が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持は自由であるが、現在は使用する場がないので預かっていたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用様が希望するタイミングで電話はできるように支援はしているが、管理者がいる時でないとなかなかできないのが実情である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調に気を使い、過ごしやすい空間づくりに努めている。	ホーム内は広い空間が確保されており、両ユニットが平面でつながっていることで、利用者が日常生活を通じて圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。リビングの壁面には、季節感のある飾り付けを行うアットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアのテーブルは、ご利用様が揃って過ごせる共有スペースとなっている。また、居室では、一人になれるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇を置いてあったり、家族の写真を飾るなど、個性があふれる居室作りを目指している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類の持ち込みや家族の写真や好みの物を飾る等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドが備え付けとなっているが、利用者の状況に合わせたベッド以外の対応も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子の導線確保に努めており、見守りがしやすいような空間づくりをしている。		